



たおやかで平和な共生社会創生プログラム

第3回国際シンポジウム「持続可能な開発目標と平和：

カンボジア、ラオスにおける戦争の負の遺産除去を目指して」を実施

平成27年12月19日、広島大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「たおやかで平和な共生社会創生プログラム」は、第3回国際シンポジウム「持続可能な開発目標と平和：カンボジア、ラオスにおける戦争の負の遺産除去を目指して」を開催しました。本シンポジウムではケネス・ラザフォード教授（ジェームズ・マディソン大学国際的安定化・復興センター・ディレクター）、ブルム・スオンプラセス氏（カンボジア地雷対策センター・国際協力プロジェクト管理部・ディレクター）、ティパソン・スクハタンマヴォン氏（ラオス不発弾プログラム・ディレクター）、林明仁氏（(独)国際協力機構・専門家）、渡邊榮樹氏（(特非)日本地雷処理を支援する会・顧問）にお話を頂きました。貴重なご講演と洞察に満ちたパネル・ディスカッションを踏まえ、成果として以下のメッセージを発信致します。

カンボジア、ラオスそして他の多くの国々で
これからの世代が平和に歩むために

カンボジア及びラオス人民民主共和国で戦後数十年を経てなお、不発弾及び地雷という致命的な遺産が文民を傷つけ、殺戮し、暮らしに負の影響を与えている。このような人道的惨事に照らし、両国および他の多くの国々でこれからの世代が平和に歩むことを願い、広島大学大学院「たおやかで平和な共生社会創生プログラム」第3回国際シンポジウムは、不発弾及び地雷の除去、被害者支援および貧困削減プログラムへの支援を継続することを国際社会に訴える。

また、不発弾・地雷除去事業の効率を高めつつ速度を増し、手の届く被害者支援を向上させるために、技術革新を進める協力を呼びかける。

<たおやかで平和な共生社会創生プログラム（たおやかプログラム）について>

たおやかプログラムは、広島大学の基本理念の1つ「平和を希求する精神」に基づき、世界の条件不利地域の多文化共生課題を解決する人材の育成を目指し、国内外の教育研究機関や企業、国際協力機関等との連携・協力のもとで実施する博士課程前期・後期を一貫した学位プログラムです。困難な課題を抱える地域に寄り添い、ニーズから発想し、適切な先端科学技術を、確実にオンサイト・ソリューションへ適用・実装する多文化共生社会創生のリーダーを育成しています。

【お問い合わせ先】

たおやかプログラム事務室
TEL:082-424-6152 FAX:082-424-6954
Email: taoyaka-program@office.hiroshima-u.ac.jp